日本コンピュータ外科学会誌　入稿ガイド（総説）

Japan Society of Computer Aided Surgery Instructions for Manuscript

貴安育三（正会員）a\*，夏香好代b

a日本コンピュータ外科大学医学部先端医療センター

b日本コンピュータ外科大学工学部医療工学科

Ikuzo Kiyasua, Sukiyo Gekab

a Advanced Medical Center, University of Computer Aided Surgery

b Department of Medical Engineering, University of Computer Aided Surgery

Abstractは必要ありません

Key words　和文を基本としますが，適切な和文がない場合などは，英文でも結構です

執筆要項，医療統計，Camera-ready manuscript, Copyright transfer form, Color pages, Original files.

# この特集号について

## 章立てと内容

別途「執筆ガイド」をご覧ください．

## 入稿フォーマット

本特集でいただいた原稿は「総説」とします．

執筆時間の都合などでこの入稿ガイドでの入稿が困難な場合は，学会側で組版いたしますので，Wordにて自由なフォーマットで記載していただいて結構です．

# 論文執筆

論文は表題，著者名，所属，Key words（以上論文ヘッダ部），論文本文から構成する．和文には，新かなづかいを用いる．外国語，外国人名，薬品名は原語のまま用いる．

\*日本コンピュータ外科大学医学部先端医療センター

〒???-????○○県○○市◇◇1-1

○○@yourdomain.jp

## 論文ヘッダ部

a) 表題中には原則として略語を用いないこと．ただし，広く一般に認知され，本文中で繰り返される略語はそのかぎりでない．

b) 著者が2名以上の場合は，所属に対応させて氏名にa, b,...の記号を上付き縮小サイズにて付す．

c) 筆頭著者は正会員，学生会員の区別を明記する．（次席筆者以降は必要ない）

d) 著者所属には住所を含めない．所属名の略記に関しては著者の判断で行って構わないが，広く一般に認知されない思われるものについては学会誌編集室が修正を求めることがある．

e) 連絡先とする著者の氏名には"\*"記号を上付きにて縮小サイズにて付し，第１ページ目の脚注に同記号に続けて所属先の郵便住所，電子メールアドレスを記す．筆頭筆者でなくても構わない．

f) 本文が和文の場合も，表題，著者名と所属には英語を併記する．

## 論文本文

a) 和文または英文にて表記する．

b) 見出しは例のように，章は1.，2.，節は1.1，1.2，項は1)，2)，...とナンバーを付す．

c) 本文中たびたび繰り返される語は略語を用いてもよいが，初出の際は全綴りを記載し，（以下，……と略す）としてその旨を断ること．

d) 度量衡の単位は原則としてSI単位を使用する．その他の単位系は必要に応じ補記する．

例；「センサの定格入力は9.8 N (1 kgf)…」

## 図表

a) 図の下側および表の上側にTimes Bold体で説明文を付す．図表中の文字および説明文は和文または英文で記す．

b) 本文中においては，図は**Fig. 1**, **Fig. 2**のように，表は**Table 1**, **Table 2**の要領で出現順に通し番号を付す．初出のみボールド体（太字体）とする．

## 数式

a) 数式には式(１)，式(２)の要領で出現順に通し番号を付す．数式の展開過程は特に必要な場合を除き，省略して簡素化を図ること．

## 脚注・文献

a) 脚注は，注1)，注2)などの記号をもって上付き縮小表記にて本文中に示し，そのページ最下部に入れる．必要最小限にとどめること．

b) 文献は1)あるいは連番の場合は2)-4),6),8)などの記号をもって上付き縮小表記にて本文中に示し，論文末尾に“文献”（英文ではReferences）と題して番号順にリストする．１番号１文献とする．和・英文ともにBritish Medical Journal形式に準じる（例については，本小冊子末尾を参照）．

## その他

a) 論文採択後に著者の所属が変更になった場合は，第１ページ目左下の脚注に“現・”と表記して新しい所属を記す．

b) 「謝辞」などは論文本文末尾に記す．

c) 簡素にまとめることを心がけること．実験資料などの提示，式の展開が冗長にならないこと．

# レイアウト・組版

## 形式

a) 用紙と余白：A4の無地白色紙を使用し，文章，図表その他一切を文字面(タテ230mm，ヨコ160mm)の範囲内に収める．上に25 mm，左右に25 mm，下に42mmの余白を設けるとその範囲となる．

b) 段組：論文ヘッダ部は1段組，本文以降は2段組(カラムの間隔は7 mm）配置とする．なお，図表が長幅を必要とする場合は，両カラムにわたり配置して構わない．

c) 配置：論文本文およびアブストラクトはカラムの幅に均等配置（カラムの左右端に文字が並ぶように文字間を調整する配置法）とする．論文タイトル，著者名，所属，見出しなどは左寄せとする．

d) 字下げ：論文本文の段落先頭は1文字程度の字下げ（インデント）を行なう．AbstractとKey wordsは全角２文字相当の字下げを行う．

e) フォントサイズ：9ポイントを基本とする．論文タイトルは14ポイント(英文は12ポイント)，章見出しは10.5ポイント，脚注・図表説明・文献は8ポイントとする．

f) フォントの種類：本文の和文フォントは明朝系（細明朝，MS明朝など），欧文フォントはTimesとする．見出しの和文フォントにはゴシック系（MSゴシックなど），欧文フォントにはArial, Helveticaを用いる．その他，ギリシア文字など最小限必要なフォント(Symbol)の利用は差し支えない．

g) 行間：シングル・スペースを基本とする．複雑な数式が入る場合などは適宜広げる．

h) 孤立行：見出しおよび段落末尾が１行だけ孤立する場合は，前後の１行を送り込むことで孤立を回避する．

i) 段落間の空白：論文タイトル上に20 mm の空欄を設ける（“原著論文”などのヘッダを学会誌編集室にて挿入する）．論文タイトルと著者名の間，著者名とアブストラクトの間はそれぞれ20pt相当の空白を配置する．論文ヘッダ部（キーワードまで）と本文は20pt程度の空白行をもって配置する．章見出しの前にも１行相当の空白を配置する．

j) 連絡先：連絡先とする著者一名の所属先の住所および電子メールアドレス（利用している場合）を第１ページ目左下の脚注に記す．筆頭筆者でなくてよい．連絡先の最下行に１行空欄を設ける（原稿受付日などを学会誌編集室で挿入する）．

k) プリンタ：印刷にはレーザプリンタや（最近の）インクジェットプリンタなど，解像度が高く濃淡ムラ・にじみの少ない高品質なものを用いること．

## 表

a) 罫線の使用・配置は自由であるが，表の上下辺には設けること．

b) 表の配置場所は，本文の関連する部分から極端に離れないこと．コラムにまたがって構わない．

## 図・写真

a) カラー入稿可ですが，紙媒体への印刷は白黒のみとします(J-STAGEにはカラー掲載予定です)．

b) 配置場所は，本文の関連する部分から極端に離れないこと．カラー部分の配置は印刷の都合上編集部にて変更する場合がある．

c) 必要に応じてコラムにまたがって配置して構わない．ただし文字面を越えないこと．

d) 広いベタ塗り範囲を持つ図に対しては，スクリーンなど他の方法で表現するか，図の明度調整などを行なうこと．

## 数式

a) 数式は左詰めに配置する．

b) 式番はカッコ( )で囲い，右詰めに配置する．展開の経過を２行以上にわたり示す場合は，最後の行に配置する．

*E = mc2* (1)

c) 必要に応じてコラムにまたがって構わない．

d) 数式に現われるギリシア文字にはギリシア文字フォント(Symbol)等を，その他にはTimes-Romanなどの半角フォントを用いること．全角文字を用いないこと．

# 提出要領

## 提出物

Wordでの入稿を基本に，別途依頼申し上げます．

## 版組みを依頼する場合の提出物

学会の定めるフォーマット以外で入稿いただいた場合は，学会側で組版致しますが，筆者に組版費用は請求致しません．なお，図・写真データファイル（JPEG等）の添付が望ましいです．

## 送付先

最終原稿は学会誌編集室([journal@jscas.org](mailto:journal@jscas.org))にメールでお送りください．

謝辞

本資料を作成するにあたり，諸先輩方のご指導をいただきました．御礼申し上げます．

文献

1. Roland P, Graufelds C, Wahlin J, et al. Human brain atlas: For high-resolution functional and anatomical mapping. Hum Brain Mapp 1994;1:173-184.

→英文論文誌の例（著者は3名まで記載）

1. 三塩宏二, 中島哲夫, 杉山純夫，ほか. シングルフォトンエミッションCTにおける任意軸断層像の再構成プログラミングの開発と応用. 核医学 1996;19:507-551.

→和文論文誌の例（著者は3名まで記載）

1. Stewart J, Broaddus W, Johnson J. Rebuilding the Visible Man. VBC '96. Hamburg, 1996:81-86.

→英文学会大会抄録集の例

1. 猪飼　篤. 分子に触れ！‐分子・一細胞触診に見るＭＥの未来. 第３６回日本エム・イー学会大会論文集．松本, 1997:174.

→和文学会大会抄録集の例

1. Whitney J, Billoski T, Jones V. Evidence for Triceratops in Antarctica. In: Billoski T, ed. New Directions in Paleontology. New York: Academic Press, 1987: 24-27.

→編著による単行本（英文）の例

1. 岸上義彦, 橋本良夫. 画像解析と細胞診. 辻内順平編. 応用画像解析. 東京: 共立出版, 1981: 198-210.

→編著による単行本（和文）の例

1. 金谷健一. 画像理解:３次元認識の数理. 第１版. 東京: 森北出版, 1990.

→単行本の例

1. Edison T. US Pat: 386974, 1888.
2. 江崎玲於奈．特公昭 33-1234.

→特許の例

文献の章番号は付さない．日本語では「文献」，

英語の場合は"References"